

CASA新聞

戸建て受注厳しく、20年度着工下方修正

林野庁・19年度第2回木材需給会議

林野庁は9月24日、2019年度第2回木材需給会議を開いた。シンクタンク13機関による新設住宅着工戸数の見通しは、19年度が平均89万3000戸、20年度が同87万戸で前回の予測より下方修正された。住宅会社からも、特に戸建て住宅の受注環境は厳しい状況が続くとの推測が示された。需要の減少が見込まれるなか、輸入の丸太と製材品は来年も減少が続く見通し

丸太は減少予測だが、合板用丸太は引き続き増加が見込まれている。

シンクタンクによる20年度の新設住宅着工戸数の見通しでは13機関中90万戸台の予測が4機関と少なく、関と少ない見通しは81万户だった。世界経済の減速に伴い、日本国内の経済も影響を受けることが厳しい予測の背景になつているとみられる。着工戸数予測の下方修正とともに

に、19年10月の輸入の丸太と製材品、合板の入荷量も、前回の予測から下方修正された。輸入の丸太と製材品は、主軸の米材を中心には、20年1～3月も前年同期比減少の見通しとなっている。ニュージーランド・チリ材は7月以降、米中貿易摩擦の悪化により輸出、梱包材の荷動きが停滞しており、10～12月もこの傾向が続く懸念が示された。

場が増えているため20年1～3月も前年同期比で増加が続く見通しだが、輸入合板は前年同期と同水準の予測。逆に構造用集成材の供給は、国内製造分は19年10～12月、20年1～3月とも前年同期比減少の予測だが、輸入品は価格競争力が高まっていることから同増加が見込まれている。

国産材原木は台風の影響受ける

名古屋商況

名古屋地区では10月に発生した台風の影響で原木の集材や製品の供給が遅れ、伐り旬最初の原木特市に影響を与えた。ただ消費税増税後もプレカット工場の稼働状況は概ね堅調で、今後の国産材合板の品不足や値上がりを懸念する声も聞かれた。

名古屋地区の原木市場では集材が遅れているが、手持ちを減らした買方が少なくないため売りやすい環境にあり、今月は集材が回復する見通しだ。

手市場浜問屋は調達コストの上昇分を製品価格に転嫁できるかを危惧している。加工量を伸ばしている製材工場は、製品の安定供給にはこまめな原木の手当が、不可欠だと指摘している。

欧洲材 製品は港頭在庫の多さや田安傾向による買い控えで伸び悩んでいる。ただ、商社では港頭在庫はピーケを越えたとみている。Wウッド間柱は弱含み傾向だが、価格は下げ止まりでおり、11、

表示説明	値下げ  横ばい  値上げ 
市況状況	ファルカタ薄ベニヤ・・・・・ 
	ファルカタ正寸12mm T2・・・・ 

令和元年11月号 発行日：11月15日（金）

発行 株式会社カーザミカワ

岡崎本社 ☎ 0564-24-2511

岡崎市吹矢町88番地

豊田営業所 ☎0565-28-3891

豊田市豊栄町6丁目1番地

10月末時まで申請急増

10月末時点で申請急増

国土交通省 次世代住宅ポイント制度

り、11月12日に国交省より、10月末時点の次世代住宅ポイント制度の実施状況が発表された。10月のポイント申請受付状況は、新築99戸（前月比316戸増）で累計2万8540戸、リフォーム7415戸（同627戸増）で累計1万582戸となっている。10月のポイント発行状況については、新築8830戸（30億67万3千ボント）、リフォーム2297戸（1億1343万1千ボント）で新築2万3645戸（82億3730万6千ボント）では新築2万3645戸（82億3730万6千ボント）で新築2万3645戸（82億3730万6千ボント）

千
ント)、リフオーム47
09戸(2億1228万
4千(ボイ)発行された。こ
れらはいずれも予約申請
を含んでいる。

10月から制度が本格化
してきたこともあり、ボ
イント申請数・発行数が
増加している。新築・リ
フォームとも予算にまだ
余裕はあるものの、大手
ハウスメーカー等の周知
により、制度が施主に対
して徐々に認知度が広が
りつつあるように見受け
られる。こういった制度
は、終わりに近づくにつ
れて駆け込みで申請が増
えるため、活用を検討し
ている場合は余裕をもつ
て申請をしたいところだ

輸入全体で20万m³を下回る

9月の合板供給

9月の内外産国
産合板供給量は46
万6800立方尺
と前月比0・4%
減。輸入合板の入
荷量は18万6800
立方尺で同8・
2%減と2カ月ぶ
りに20万立方尺を
下回った。特にマ
レーシア産の入荷
量は5万立方尺台
となり、これは繼
続的な入荷が始ま
つて以来最低とみ
られる。一方、国
産合板は28万立方
尺で同5・6%増
と堅調な生産を続
けている。

の産地別入荷量は
マレーシアが5万
3800立方尺と
同14・6%減、イ
ンドネシアが7万
400立方尺と同
9・2%減、中国
が4万6500立
方尺と同1・2%
増。マレーシア産
はこれまで4カ月
連続で6万立方尺
台と低水準の入荷
量が続く。しかし
国内価格が先物価
格を下回る状況が
続いたため、国内
流通各社は積極的
な仕入れに動きな
かつた。年内は現状の入

荷水準が続くとともに輸入合板の年間入荷量は251万6,600立方尺となり、直近で過去最低の入荷量だつた2016年を10%近く下回り、過去最低を更新する可能性がある。

日数が多くなったため、その分生産量が伸びている。一方、国産合板の出荷量は28万5000立方尺と同7.2%増。プレカット会社など直需ルートからの活動的な引き合いが続いていることから、出荷量は堅調に伸びている。

出荷量が生産量を上回ったことで、針葉樹合板の在庫量（日合推計値）は11万8700立方尺と前月比3300立方尺減。在庫量は出荷量の

0・4か月分しかない状態が続いている。国内合板メーカーでは、生産したもののをすぐ出荷する状態になつてゐる工場も少なくない。

相次ぐ台風でホームセンターなどから復旧需要が徐々に出来おり、年末が近付いてくるとトラブルの不足感も徐々に強まるため、ひとつ迫感が出ないよう慎重に対応している。

表示説明	値下げ  横ばい  値上げ 
市況状況	ファルカタ薄ベニヤ 
	ファルカタ正寸12mm T2 
	針葉樹12mm 3×6 